



WE, JOKERS

英語のジョークを楽しむ会会報

No.23 December 10, 2010

- ジョークの心得三か条: 1. ジョークは心のゆとりであり、人生の潤滑油です。
 2. ジョークで言語の壁に挑むのは知的快感です。
 3. ジョークは簡潔が至上です。

ジョークと私

駄洒落はジョーク界のB級グルメ

佐川 光徳

私の愛好するジョーク集 *Penguin Pocket Jokes* (compiled by David Pickering, 2006) に、Book titles なる項目がある。なぜ書物のタイトルがジョークになるか？ 書名を著者名と組み合わせることによって、駄洒落的効果がかもし出されるからだ。

たとえば、*At the North Pole* by I.C. Blast とあって、これは著者名が icy blast と同音になり、書名との取り合わせの妙を楽しむことができる。

昔、少年雑誌で読んだ、轟亘 (とどろき・わたる) とか、横瀬金雄 (よこせ・かねお) とか、まるで他愛もない人名駄洒落の面白さが、私の子ども心に刷り込まれて、この偏愛が生じたらしい。

その妙味を、皆さまにもおスソ分けいたしましょう。以下は、浅学の私にもツボが呑み込めたらしいものです。

- *At the South Pole*
by **Ann Tarctic** (=antarctic)
- *A Young Man's Guide to Dating*
by **Caesar Titely** (=She's a tightly....)
- *Dating Period Furniture*
by Anne Teak (=antique)
- *Dealing with Alcoholism*
by **Carrie M. Holme** (=Carry me home.)
- *Diary of a Bank Robber*
by **Hands Upp** (=Hands Up!)
- *How to be Stupid*
by **M.T Head** (=empty head)
- *How to Succeed*
by **Vic Tree** (=victory)
- *Improve Your Memory*
by **Ivor Gott** (=I forgot.)

- *Influenza*
by **Mike Robe** (=microbe)
- *Jungle Fever*
by **Amos Quito** (=a mosquito)
- *Keeping Cheerful*
by **Mona Lott** (=Moan a lot.)
- *Magic for Beginners*
by **Beatrix Ster** (=Be a trickster.)
- *My Political Memories*
by **Lisa Lott** (=lies a lot)
- *On the Beach*
by **C. Shaw** (=seashore)

(グレゴリー・ペックやエヴァー・ガードナーが出演した同名の近未来映画がありましたが、原作者はこの人ではありません。)

- *Pain and Sorrow*
by **Ann Guish** (=anguish)
- *Swimming the Channel*
by **Frances Near**
(=France is near.)
- *Try and Try Again*
by **Percy Vere** (=persevere)
- *Vegetable Gardens*
by **Rosa Cabbages** (=rose an' cabbages)



以下は、私の手に負えないもの。皆さまの教えを請いたいと存じます。(ほんとは、もっと沢山あるのですが...)

- *Bullying is Wrong*
by **Howard U. Lykit**
- *Scalp Disorders*
by **Dan Druff**



お粗末さまでした。

第 23 回研究発表会

Jokes in the Classroom

小澤 正樹

「若手芸人」のギャグに大笑いする高校生。それも悪くないけど、世の中別の笑いもあるんだよ、と高校の英語授業でジョークを使ってみた。

まず大切なのはジョークの選択。相手は1年生、「短く、わかりやすく、テンポのあるもの」という観点で選んだ。全部で17話、それを50分の授業で読んで、自分のおススメ3話を選ぶ。その間にわからないジョークをグループで話し合う。

はじめポカーンとしていた生徒も、仲間と話すうちに英語のジョークのツボがわかってくる。こうなると高校生は速い。教室のあちこちから笑いが起きる。先にわかった生徒は言いたくて仕方がない。こら、先にオチを言うな！

かくして生徒が選んだ3話は、これ。

‘Doctor, doctor, everyone keeps ignoring me.’ ‘Next please!’

これはこのままコントになりそうな話。生徒が好むのも当然か。医者にまで無視されたらつらいな。



An old man is driving along the M6 Motorway when his mobile starts to ring.

Answering he hears his wife’s voice and she says, “Harold, be careful, I’ve just heard on the news that a car is driving the wrong way on the Motorway.”

“Hell,” says Harold. “It’s not just one car. It’s hundreds of them!”

これは研究会の皆さんにも一番人気。出来のいい話は年齢に関係なくウケがいいようだ。the

wrong way を「違った道」と考えた生徒にはわからない。

A man is talking to God.

The man: God, how long is a million years?

God: To me, it’s about a minute.

The man: God, how much is a million dollars?

God: To me it’s a penny.

The man: God, may I have a penny?

God: Wait a minute.

これを選ぶとは我が生徒、なかなかスジがいいな。「ちょっと待て」と考えてしまうとわからない。当然ながら、神様の方がはるかに上手です。

授業ではまた、2つの話の punch line を隠して、オチを生徒に想像させた。その一つが、これ。

‘Doctor, doctor, whenever I touch, it hurts. When I touch my shoulder, it really hurts. If I touch my knee – OUCH! When I touch my forehead, it really hurts.’



‘I know what’s wrong with you. You’ve broken your ().’

いかがですか？ 答は finger。どのクラスでも正解が出た。なかなか優秀。

今後生徒がもう少し慣れたら、自分で見つけたジョークを発表させたり、最終的にはジョークを自作させたい。高校生の発想はあなどれない。新種のジョークが生まれるかも、と楽しみだ。

生徒諸君、君たちがこれから生きて行くのは外国人と渡り合う世界だ。その時ジョーク力が物を言う。それに、お互いジョークを言い合っている限り戦争にはならないだろう。英語力と同時にジョーク力も養おう。大学入試には多分出ない。でも、世界がちょっと広がるはずですよ。

☆☆☆☆☆☆☆☆

第 23 回研究発表会

CHURCH BULLETINS

土屋 政雄

教会のお知らせに現れた不適切表現の数々。

●Don't let worry kill you—let the church help.

—教会が自殺の手伝いですか？

●Thursday nigh—Potluck supper. Prayer and medication to follow.

—何を食わされるかわからんのは確かに恐怖だ

●The rosebud on the alter this morning is to announce the birth of David Alan Belzer, the sin of Rev. and Mrs. Julius Belzer.

—“sin”から “son” が生まれた

●This afternoon there will be a meeting in the South and North ends of the church. Children will be baptized at both ends.



—お尻に洗礼ってアナルセックス？

●Wednesday the ladies liturgy will meet. Mrs. Johnson will sing “Put me in my little bed” accompanied by the pastor.

—添い寝でなく伴奏です

●Thursday at 5:00 PM there will be a meeting of the Little Mothers Club. All

ladies wishing to be “Little Mothers” will meet with the Pastor in his study.

— “Little Mother” 志願者と二人きりって、どうなの？

●This being Easter Sunday, we will ask Mrs. Lewis to come forward and lay an egg on the alter

.—祭壇にウンコ！

● The service will close with “Little Drops of Water.” One of the ladies will start quietly and the rest of the congregation will join in.



—全員のお漏らしで礼拝はフィナーレへ

●A bean supper will be held on Tuesday evening in the church hall. Music will follow.

—豆でお腹がはって、やがて妙なる音楽に

●Irving and Jessie Carter were married on October 24th in the Church. So ends a friendship that began in their schooldays.

—長年の友好関係が結婚を機に敵対関係に変わる？

●This evening at 7 p.m. there will be a hymn singing in the park across from the Church. Bring a blanket and come prepared to sin.

—G スポットはどこだ？

●Ladies: don't forget the rummage sale—it's a chance to get rid of those things not worth keeping around the house—bring your husbands.



—旦那さんも仕分け対象に

PALINDROME

宮本倫好

「上から読んでも下から読んでも山本山」というコマーシャルがありました。回文のもじりで、本物の文章にも「竹藪焼けた」式の平易なものから「長き夜の遠の暝りの皆目覚め波乗り船の音の良きかな」といった凝った狂歌まであります。

英語では *palindrome* と呼ばれ、西欧では紀元79年まで遡れるそうです。各文明とも昔から楽しんできた言語の知的遊戯で、ユーモアのセンスに通じる気がします。我が会員で *crossword puzzle* の権威、安藤雅彦氏のような *word player* が参加するのですが、この分野では特に *palindromist* と呼ばれているようです。

大学時代、恩師からナポレオンがエルバ島に流された時の言葉の英訳として “Able was I ere I saw Elba.” (エルバ島を見るまで私に不可能はなかった) を教えられました。多分後世の誰かの作でしょうが、思わずひざを打つような傑作だと思いました。



単語にも *civic*, *level*, *radar*, *refer*, *rotator*, *tenet* など左右対称語が数多くあります。Oxford English Dictionary による最長の *palindrome* 単語は、*detartrated* だそうです。これは相当な難語で、ジュースやワインから酒石硝酸を除くことらしい。地名にも *Kanakanak* (Alaska), *Kinikini* (Colorado), *Ward Draw* (South Dakota) などがあります。

しかし、面白いのはもちろん文章で、簡潔で味わいが深いほど良いと思います。古典的傑作は、*A man, a plan, a canal: Panama.* です。これは物の本によると、1948年秋の *Notes & Queries* で Leigh Mercer が発表したとありますが、ネットで調べてみると、色んな「家元論争」があるようです。垂流で *A dog, a plan, a canal: Pagoda.* が生まれましたが、話題にもなりませんでした。長い時事物ではこんな傑作を見ました。

Are we not pure? “No sir!” Panama’s moody Noriega brags. “It is garbage!” Irony dooms a man; a prisoner up to new era.

(Noriega はかつての Panama の麻薬王の独裁者で、米国に逮捕されました。)

第24回研究発表会と新年会のご案内

会員各位のご参加をお待ちします。まだ会員になっておられない方もどうぞ。

- 日時：1月15日(土) 午後2時～5時
- 会場：平河町 Mercury Room
(クオリティ(株) 6階会議室)
(東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル)
- 交通：地下鉄・有楽町線麹町駅1番出口より徒歩2分。地図は、
<http://www.quality.co.jp/> どうぞ。
- プログラム
 - ① 第7回ジョーク・コンテスト
司会＝長谷川真弓 会員
 - ② 新年懇親会(飲み物・ご馳走つき)
司会＝安藤雅彦 会員
- 参加費：会員・非会員とも2,000円。
- 問合せ先：renraku@eigojoker.com

第7回ジョーク・コンテスト出題作品募集

- 要領：
 1. 出題は、お一人二題までとします。
 2. 長さは、一題15語までとします。
 3. 必要と思われる場合には、「笑いのツボ」を付記してください。
 4. 当日出席できない方も、応募できます。
 5. 結果は、*We, Jokers* No.24 Joke Contest Supplement 紙上でも発表されます。
- 宛先：mmsagawa403@s6.dion.ne.jp
- 締め切り：2011年1月5日(水)

WE, JOKERS 英語のジョークを楽しむ会会報 第23号

発行日：2010年12月10日

発行人：世話人代表 宮本倫好

編集人：佐川光徳

発行所：英語のジョークを楽しむ会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-5 平和第一ビル

クオリティ株式会社 気付

TEL:03-5275-6121, FAX:03-5275-6130

問合せ先：renraku@eigojoker.com